

オンライン研修による病院薬剤師版

バランスト・スコアカード作成への取り組み

施設名／所属：公益社団法人 神奈川県病院薬剤師会 ファーマシーマネジメント委員会¹

IMS グループ横浜旭中央総合病院²

発表者：小串興平^{1,2}

共同研究者：小田切正美^{1,2}、小林岳¹、関口信香¹、庭木宏¹、大幸淳¹、廣瀬直樹¹、藤田明宏¹、吉田博史¹、岡添進¹、中村葉月¹、金田昌之¹、林誠一¹、金田光正¹、赤瀬朋秀¹

I はじめに

神奈川県病院薬剤師会ファーマシーマネジメント委員会（以下、当委員会）では、病院薬剤部門の運営管理に関するマネジメントツールの一つとして、バランスト・スコアカード（以下、B S C）に着目し、病院薬剤師版B S Cセミナーを開催している。コロナ禍においても継続して研修会を運営するため、2020年度よりオンラインホワイトボードシステムM i r o[®]を活用したオンライン形式で実施しているが、B S Cを作成するにあたり、ファシリテータの存在が重要であり、集合形式と同様のサポート体制を構築することが求められる。

II 目的

集合形式での研修会開催が困難となったため、2020年度より参加者およびファシリテータがともにオンライン形式でB S C作成に取り組んだ。2020年度の運営について、ファシリテータを対象としたアンケート調査を実施し、問題点を抽出した。2021年度においてもオンライン形式でのB S Cセミナーを開催したが、2020年度に抽出された問題点を踏まえ、運営面での改善を行った。今後の研修に際して、さらなる改善を行うため、オンライン形式によるB S C作成に関する評価を行

った。

III 研究方法

B S C作成に携わった当委員会委員13名を対象としたアンケート調査を実施した。設問はすべて自由記載とした。得られた回答は、「事前準備」、「セミナー運営」、「B S C作成」、「成果発表」、「ファシリテート」、「その他」の6群に分類し、当委員会において改善点を検討した。さらに、2020年度と2021年度の運営状況を確認するため、「改善した方が良い点」について比較を行った。

IV 結果

2021年の調査では、2020年の調査と比較して事前準備に関する意見が減少し、B S C作成に関する意見が増加した。B S C作成に関しては、M i r o[®]の活用方法について適切なサポートにより円滑な進行が可能になったとの意見が多くみられた。また、改善した方が良い点に関する意見の比較では、オンライン環境の不測の事態への対応についての意見が多くみられた。

V 考察

B S Cセミナーの参加者もオンラインでの

研修スタイルに慣れてきているため、大きな問題もなく研修会を開催できた。感染対策や在宅勤務など社会情勢の中で、オンラインでのBSCセミナーは今後も継続していく必要があると考える。また、Miro[®]を活用したBSC作成にも慣れてきた様子が見られた。しかしながら、PCの準備や通信環境などオンライン研修に特有の問題点も新たに挙げられた。今後はオンラインと対面形式のハイブリッドの研修体制を検討することが求められる。

VI 結論

オンライン形式でも対面形式と変わらずBSCを作成することができた。薬剤部門の運営をサポートするため、当委員会によるBSCの普及を進めていきたい。

参考文献

小田切正美ら『病院薬剤部門におけるBSC導入とファシリテータのあり方に関する研究』

医療バランスト・スコアカード研究 14(1),
pp139-146